

今回は、前回 668 号【発達段階と読書】に引き続き、子供の読書応援隊フォーラム「子供の発達段階に応じた読書活動～未来をひらく本とのであい～」で話された興味深い内容についてお届けします。

作家 柳田 邦男 氏は、講演「絵本の力 ～大人の気づき・子どもの心の成長～」の中で、瀧村 有子 作『ちよっとだけ』福音館書店を我が子に読み聞かせしたお母さんから届いた手紙のことを話題にしたそうです。

絵本『ちよっとだけ』のあらすじを紹介します。

弟が生まれてお姉さんになった主人公なっちゃんが、これまでママにやってもらっていたことを頑張って自分ひとりでやってみます。しかし、何でも頑張って続けていたけれど、最後には疲れて眠くなります。その時なっちゃんは、「ママ、“ちよっとだけ”だっこして」とお願いします。するとお母さんは「“ちよっとだけ”ではなく、いっぱいだっこしたいんですけどいいですか？」と答えます。そのやりとりには、お姉さんになったことで感じる切なさやそれを乗り越えることで成長していく子どもの姿を母親の深い愛情とともに描いているとても温かな絵本です。



大人は、この絵本を読んだとき、ママとなっちゃんの抱っこのシーンで心にぐっとこみあげる人が多いのだそうです。

一方、読んでもらったお子さんの方かというと、なっちゃんが自分ひとりで初めてこぼしながらも、ほんのちょっぴり牛乳をコップにそそぐことができた場面を見て、小さな手でいっぱい拍手したそうです。その時、それを見たお母さんは、大人とは違う、子供の「できた」を認める姿、肯定的なまなざしにハッと気づかされたそうです。

柳田氏は、「大人はできていないところに目が行きがちである。しかし、子供にとっては、ほんのちょっとも『できた』ことが素晴らしいのだ。大人もぜひ子供の『できた！』を受け止める肯定的なそして、温かいまなざしを持ってほしい」と語ったそうです。

2019 年度版「子供・若者白書」の国際比較調査によれば、日本の若者は他国に比べて自己肯定感が著しく低いことが改めて明らかになりました。「自分自身に満足しているか」の問いに対し、肯定的回答をした若者は、他国で 7 割以上に対し、日本は 5 割以下となっています。そして、前回の 2013 年と比較すると、さらに低下傾向にあります。

子供の自己肯定感は、生まれ持って低いわけではないのかもしれませんが。
もしかしたら私たち大人のまなざしを日頃から常に「できない」から「できた」へと変え、言葉をかけていく必要があるのかもしれないね。【Ｙ】



○メルマガで取り上げて欲しい内容や感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)）

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>） > 「発行物・刊行物」

> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索